

第5回セミナー「お城へ行こう！～城めぐりの楽しみと江戸城の魅力～」実施報告

◆開催日時 2019年 3月31日(日) 13時半から16時

◆会場 千代田区 区民ホール

◆参加者 約60名(会員及び一般市民)

1. 代表理事挨拶 (小竹直隆代表理事)

・千鳥ヶ淵の桜も見頃を迎え、今日の佳き日に、萩原様、後藤様をお迎えしてのセミナー開催は大変喜ばしく存じます。また、本日までご参加の皆さまは、会員のみなさまをはじめ皇居周辺で歴史文化まちづくりの活動をしておられる方々等、半数は、一般市民のご参加も頂いており、有難く思っております。

今回のセミナー開催に当たり、千代田区をはじめ多数の団体などのご後援を戴いております。改めて、御礼を申し上げます。

また、セミナーの開催には、多くのボランティアのみなさまのご尽力があります。誠に有難うございます。

さて、昨年11月、旧江戸城とその城下町を対象にした歴史上、初の本格的な学術・調査研究をスタートし、第一次基礎調査が終了しつつあります。実に多くの歴史文化遺産が散在していることが分かりました。

今後は、江戸城再生の今日的意義を検証し、2022年には「江戸・東京歴史文化ルネッサンス基本計画書」の完成により、産学官民の市民・団体など関係機関による「国家的なプロジェクトの設置」に向けて、行政や関係機関に提言して参ります。

本年4月に文化財保護法が施行され、世界遺産ブームやインバウンドの急増など内外の文化観光を取り巻く環境は「江戸・東京歴史文化ルネッサンス」にとっても追い風となっております。みなさまと一緒にこの運動を進めていこうではありませんか！本日はご参加を頂き、誠に有難うございます。(講師紹介は略)



代表理事・小竹 直隆



2. 講演

テーマ： 「お城へ行こう！～城めぐりの楽しみと江戸城の魅力～」

講師： 萩原 さちこ 様 (城郭ライター・編集者)

・「お城へ行こう！」の前半は、「城めぐりの楽しみ」について、講演されました。城はそれぞれが個性的であり楽

しみ方は様々で、自分流の“ツボ”を見つけるのがコツであること。松本城、姫路城、彦根城を例に城めぐりでは想像力が重要であり、城兵の気持ち、敵兵の気持ちでシミュレーションしながら、城めぐりをすることや、疲れる城ほど、攻めにくく守り易い城であるといった、楽しいお話しがありました。

- 後半は「江戸城の魅力」について、江戸城は、徳川将軍家の威厳を示す城であり、全国の城のほとんどが1615年の一国一城令、武家諸法度で築城や改修は終わるのに対し、江戸城は徳川幕府の本城として、家康から家光の35年に亘る築城期間の長い城であること。

幕命により全国の諸大名が請け負う天下普請であることから、全国の名の最高峰の技術を見ることができる。時代ごとの技術の違い、進化も見ることができる。城の石垣の算木積み発展の歴史が江戸城内で見ることができること、また、複雑な自然の地形を巧みに利用しているとともに、大規模な土木工事が行われており、例として本丸が10m以上の盛り土がされていることや、緻密な計算により、すべての濠が水位調整されていることなど。多彩な映像資料を映しながら、楽しく、分かりやすく説明されました。

- 参加者アンケートでは、93%以上の方が「大変よかった」「よかった」との評価となっています。ご意見としては「江戸城の魅力がよく分かった」、「天下普請だったということ、江戸城は他の城とは一線を画すことが分かった」、「江戸城が作られた時代、歴史や文化を理解することが江戸城の魅力により深く豊かにすることがよく分かった」との声がある一方で、「もっと江戸城の具体的な魅力を聞きたかった」といった意見も出され、今後のセミナーの企画に反映させて参ります。

会場の様子（はじまり）



萩原 さちこ様



江戸城外堀跡の堀と土手

牛込門石垣



牛込・喰違間の堀の構造



*ティーブレイクタイム

参加者同士、役員と皆さまで、ティーブレイクのひと時を楽しまれ、大変に好評でした。

3. 対 談

テーマ：江戸城や城下町について

対談者： 萩原 さちこ 様（城郭ライター・編集者）、後藤 宏樹 様（江戸都市史研究家）

（萩原様）城ブームという言葉は好きではないが、城への関心の高さは、年齢に関わらず高いものがあり、小中学生から、研究の域にあるような取組みがあり驚く。

（後藤様）萩原さんのお薦めの城は？

（萩原様）好きな“ツボ”のポイントを見つけることが大切で、戦国時代の山城からいろいろ見ていくと、時代の流れとともに、比べることで、魅力が見えてくる。

江戸城と同じ時代に造られた城と天下普請とそうでない一大名の城をしてみる、江戸城だけではなく、関東の城もいろいろ見ることで発見がある。

（後藤様）関東の城は土の城が醍醐味と言われる。関東（関東ローム層）と関西の地質の違いも着目すると面白い。

- ・慶長期の江戸城は、北側に武田の技術で「馬出し虎口」、南側に「石垣の枳形」といった違いがあり、面白い。
- ・時代を経ると、戦う城から見せる城へと変わっていく。現存の江戸城の天守台も上にいくにつれて石の大きさが変化しており、見上げると大きく見える。
- ・江戸城と大坂城の惣構えの規模を比較すると、いかに江戸城が巨大な城郭であったかが分かる。しかも失われずに残っており、これだけの外濠が残っている城はない。
- ・石垣の石についても、萩原さんの資料に伊豆の石切場の写真があったが、伊豆や瀬戸内の石など、江戸城は全国的なダイナミクスで作られている。
- ・江戸城は、家康の時代から幕末までの城の発展が見られる貴重な城である。
- ・参加者アンケートでは、「大変よかった」「よかった」との評価が90%となっています。「大変面白くて時間があっという間に過ぎた」、「江戸城築城の経緯を知ることができてよかった」、「関東ローム層まで考察が及び、城の設計や守備力にまで影響していることが分かった」、「江戸城再生は特別な価値があるのだと気付いた」との声がある一方で、「参加された石積み職人等の方々からも意見を取り入れるとより面白くなると思う」、「本格的な対談形式も期待したい」、「対談の時間が足りなかった。」といった意見も出され 今後のセミナー企画に反映させて参ります。



NHKプラタモリの案内人
江戸城ならこの男・後藤 宏樹様



大きな江戸城と大坂城の比較